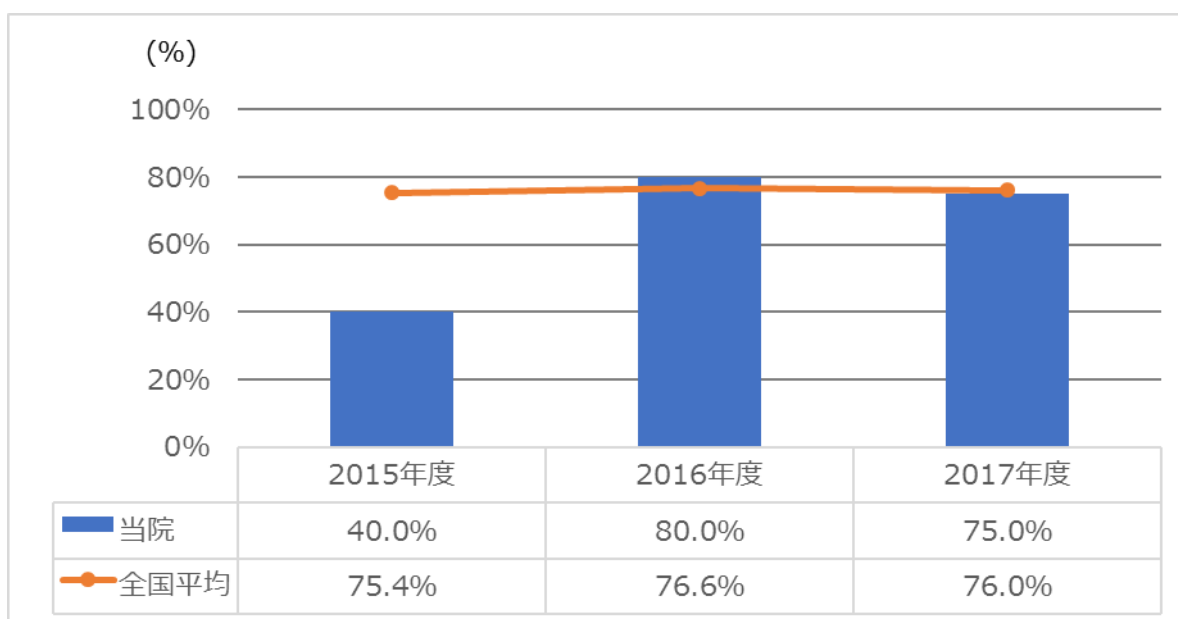


指標 1 心房細動を合併する脳梗塞（TIA 含む）の診断で入院し、退院時に抗凝固薬を処方された症例の割合



<定義>

| | |
|------|--|
| 分子 | 分母のうち、退院時に抗凝固薬を処方された症例 |
| 分母 | 18歳以上の脳梗塞かTIAの診断で入院し、かつ心房細動と診断を受けた入院症例 |
| 期間 | 2015年度～2017年度（1年毎に集計） |
| 対象 | 上記期間の退院患者 |
| 値の解釈 | 高い方が望ましい |

<解説>

脳梗塞の再発予防に使われるお薬は、脳梗塞のタイプや治療の時期によって異なります。心原性脳塞栓症の原因となる心臓の血栓は心房細動の持病があるかたに形成されます。再発予防には血栓が形成しにくくなるような抗凝固薬を服用していく必要があります。ただし、患者さんの持病や体質によっては処方しない場合もあります。

※ 本データは厚生労働省提出用のDPCデータを基に作成されています。また、全国平均の値については、当院が参加している「医療の質と経済性に関する実態調査【京都大学大学院QIP事業】」における「医療の質の指標」の計測結果（事業に参加する全国の病院の平均値）を用いています。

【参考 URL】

<http://www.kch.kagoshima.jp/about/qip.html>（当院のQIP参加について）

<http://med-econ.umin.ac.jp/QIP/CI.html>（QIPにおける計測結果）